

## 第3節 中学校

### 思春期の発達特性

12歳から15歳という中学生の学齢は青年期の入り口である「思春期」に当たり、心身の変化の著しい時期とされている。

青年期は子どもたちが親からの精神的自立を企図し、自己を確立していくという課題を遂行せねばならない時期である。その入り口に当たる「思春期」は、身体の成熟と心理的・社会的発達の間にはずみが生じやすく、心身のバランスを失いがちであり、不安定な心理状態が目立つ。この時期にある中学生は、みずみずしい感受性や新しいものに対する柔軟性を持ち、「自分は何者か」という「自我同一性」を求めるが、甘えと依存、自信と不安、傲慢さと過敏さなどが心の中に同居し、自己肯定感が実感できず、自分をコントロールしにくい心理的な特徴を有している。

アンケートの結果にみるように、中学生の自己コントロール力や自己肯定感にかかわる数値の低さは、他の校種と比べると際だっている項目が多い。思春期特有の不安感や情動の激しさから、他者の目に敏感になったり、自己防衛を強めたりして、教師を含め他者からの受容感を得られず、一層肯定感を低くし、自己発揮できにくい状況にある。

また、自己中心的で未成熟な感情が潜んでいることも多く、情動の激しさや耐性のなさが自己コントロール力を低め、不安定な言動につながり、自己の確立において様々な課題がある。

こうした思春期の課題を踏まえるとともに、人間関係の希薄さに伴う今日的社会の課題を考慮して、自己コントロール力をはぐくみ、自己肯定感を実感する授業を構想し、授業改善を図ることが必要であると考えます。

### 思春期の発達特性を踏まえた課題

児童生徒の教育にかかわる今日的課題として、基礎・基本の徹底による学力の充実・向上と個性の伸長を図ることがクローズアップされている。こうした課題を解決するために主体的な学習や個に応じた学習の工夫が図られている。

しかし、学習に対する中学生の特徴として、他者の目を気にし、人とかかわることの緊張感や自分を表現することへの抵抗感、学びの過程や学んだ結果への自信のなさが、学習に対する意識としても如実に現れ、授業中の態度に影響し、そのことが主体的な学習を疎外する要因の一つにつながっている。

このような考察とアンケート結果から、次の5点を自己コントロールと自己肯定感をはぐくむ授業改善の方途として考えた。

主体的な学習活動のある授業

自己の思いや考えを発揮（表現）できる授業

他者とかかわりあい、互いに認め合う授業

自ら目標をもち、粘り強く取り組み達成感をもつ授業

学んだ（学びの過程や結果）自信をもつことができる授業

ここでは、こうした課題を積極的に受け止め、国語科と社会科の授業実践を通して、その方途を探ろうとした。

これまでの国語科の授業は、文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであったことが一つの要因となって、充足感の少ないものとして生徒にとらえられがちであった。また、社会科は、知識伝達型の暗記教科としてとらえられがちであった。

国語科は表現力を高め、伝え合う力を育成することを教科の目標としており、教科自体の目指すべき学習活動そのものと上記の課題には強いかわりがある。また、社会科においては、学び方を学ぶ学習の充実を観点の一つとして教科の目標と内容が改訂され、国語科と同じく目指すべき学習活動と上記の課題には強いかわりがあると考えられる。

### 目指すべき授業改善

先に述べた課題を踏まえ、国語科と社会科において、研究の視点と教科の特性を踏まえた授業改善の構想を考えた。共通して取り組むべき視点から主な改善の方途を次のように考えた。

|                          |          |  |
|--------------------------|----------|--|
| 主体的な学習活動のある授業            | 国語<br>社会 | 主体的な言語活動(調べ学習,パネルディスカッション)を設定する。<br>適切な課題を設けて行う学習を設定する。            |
| 自己を発揮(表現)できる授業           | 国語<br>社会 | 話し合い学習の中で自分なりの考えを表現させる。<br>情報整理や課題探究の過程で自分なりの工夫をさせる。               |
| 他者とかかわりあう授業              | 国語<br>社会 | 交流の場を積極的に設定する。(グループ学習、相互交流学習)<br>交流の場を積極的に設定する。(学習成果の交流)           |
| 目標をもち、粘り強く取り組み達成感をもつ授業   | 国語<br>社会 | 学習計画を作成させ、適切な評価活動を行い、学習の手引きを提示する。<br>学習に見通しをもたせ、評価の観点、手順、方法等を提示する。 |
| 学ぶ過程と学んだ結果に自信をもつことができる授業 | 国語<br>社会 | 話し合いに認め合う視点、テーマ考察に達成感をもたせる。<br>発言の評価、新聞の相互評価、成果に充実感をもたせる。          |

自己コントロール力や自己肯定感の育成については、第1年次を踏まえて次のような要素を授業改善の方途に織り込み、具体化を図った。

|  |
|--|
| <p>自己コントロール力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習目標を設定し、自己の学びを認知し評価する中で学習の在り方を調整する。</li> <li>・生徒が主体的に、粘り強く取り組むための学び方を身に付けられるようにする。</li> <li>・学習過程の自己評価をもとに、次の学習へ意欲付けし、学習への見通しをもつ。</li> </ul> <p>自己肯定感</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の学びを表現活動を通して発揮し、自己評価し、自分の力を認める。</li> <li>・生徒が交流し互いに認め合う学習によって、自己肯定感を実感する。</li> </ul> |
|--|

# 1 国語科

## 中学校国語科における方策

### 「情報社会と私」

#### メディアプラン会議をしよう

(第3学年)

#### (1) 中学校国語科の目標や内容とのかかわりと研究の視点

##### ア 目標とのかかわり

中学校国語科の目標は次のとおりである。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

これらの目標を、自己コントロール力や自己肯定感からとらえると次のように考えられる。

自分の思いや考えを「適切に表現」するためには、自分の思いや考えを肯定的にとらえたり、確かな表現方法を身に付け表現への自信(肯定感)を高めることが必要である。他者の思いや考えを「正確に理解する」ためには、他者の意見や異なる考えについて構成や論理の展開に注意し的確に聞いたり、筋道立てて読んだりして理解する粘り強さや調整する力(自己コントロール力)を身に付けることが必要である。「伝え合う力を高める」ためには、自他を尊重するための自己肯定感や相手、場や状況に応じて言語活動を自分でコントロールする力が必要である。

国語科の目標に示される確かな言語能力を育成するために、自己コントロール力や自己肯定感の支えは必要である。同時に、言語能力を支える自己コントロール力や自己肯定感を、国語科の中ではぐくむことも重要である。これらの育成を、車の両輪のように進めていくためには、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習の過程を通して、それぞれの言語能力が高まったという達成感を実感させ、自らの学習を律し、粘り強く課題に取り組む主体的な学習方法や指導方法を工夫することが必要になると考えられる。

そこで、中学校国語科の研究では、単元の学習内容と自己コントロール力や自己肯定感のかかわりについて、実践に即して考えるとともに、効果的な指導方法の工夫について、国語科の授業改善の方向と第3章第1節に示す三つの研究の視点から考察したい。

#### イ 本単元における各領域の目標や内容とのかかわり

実践に当たっては、本単元「情報と私」における各領域(第2年及び第3学年)の目標とのかかわりを、自己コントロール力と自己肯定感の育成の視点(第3章第1節参照)から、それぞれ次のようにとらえ、意識的に学習計画を立てるようにした。

##### 「話すこと・聞くこと」の目標とのかかわり

**自己コントロール力** ... 目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりすることによって論理的な思考を働かせ自分の考えを深め、伝え合う力を育成する。

**自己肯定感** ... 話すことによって、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたり、自分の思いや考えをまとめ、表現する喜び、話し言葉を豊かにし、伝え合う喜びを臨場感をもって実感する。

## 「読むこと」の目標とのかかわり

**自己コントロール力** ... 目的や意図に応じて文章を読むことによって、話の論理の展開の仕方を的確にとらえ、伝え合う言語活動に効果的に活用する能力を育成する。

**自己肯定感** ... 読むことによって、広い範囲から情報を集め、新しい知識を得、既存の知識を深め、知的好奇心や感動を高め、読書を生活に役立て自己を向上させようとする。

(アンダーラインが「話す・聞く」「読む」の学年目標に関連する部分)

こうした目標とのかかわりを踏まえ、言語の教育としての立場を基本としながら、内容の指導に当たっては、自己コントロール力と自己肯定感をはぐくむ視点を持ち、学習過程に位置付けることとした。また、自己コントロール力と自己肯定感のどちらか一方が機能するととらえるのではなく、相互に作用するものととらえた。(第1集第3章平成12年)

## ウ 研究の視点

### 教科独自の指導方法を生かす視点

自己コントロール力と自己肯定感の育成と国語科の学習指導には、車の両輪のようなかわりがあると考えられる。そこで、主体的な言語活動の設定、言語意識の明確化・具体化、交流の場の設定など授業改善のポイントを基に、次のように研究の視点をまとめた。

#### (主体的な言語活動の設定)

単元の学習内容に対して、なぜ学ぶのか、どう学ぶのか、学んだことをどう生かすのかを生徒一人一人が明確化する学習計画を作ることにより、主体的な学びの姿勢をもたせる。

単元の目標や内容に即した適切な言語活動(ここでは、パネルディスカッション)を設定することによって、主体的に取り組み、パネルディスカッションを成功させるための自己コントロール力を働かせ、自己肯定感を実感できるようにする。

単元全体を通して「情報社会にどう生きるか」という課題解決的な学習を設定することで、<sup>1)</sup>実の場で生きて働く言語能力や主体的な言語学習の学び方を身に付けるようにする。

(\*1 実の場: 実際の社会生活、実際の生活に通じる場面)

#### (言語意識の明確化・具体化)

言語意識として「目的意識」「相手意識」「方法意識」「場面状況意識」「評価意識」を明確化し、見通しのある学習や自己を振り返る学習を設定することによって、自己コントロール力をはぐくみ、自己肯定感を実感できるようにする。

|          |   |
|----------|---|
| (目的意識)   | 単元の学習内容に対して、なぜ学ぶのか、学んだことをどう生かすのか生徒一人一人が明確化する。                 |
| (相手意識)   | 自分の考えや学んだことを誰に対して発信するのが、あるいは相手の立場に立つという意識をもつ。                 |
| (方法意識)   | 単元に応じて、どう学ぶのかという学び方の基本を学習することによって、生徒が自分なりに学習方法を選択したり、工夫したりする。 |
| (場面状況意識) | どのような場面や状況の中で言語活動を展開するのかという意識を明確にする。                          |
| (評価意識)   | 学習の過程や学習のまとめの際に、言語能力がどれだけ高まったか、課題は何かを適切に把握し、今後の学習に生かせるようにする。  |

## （交流の場の設定）

各領域の全てにかかわって学びの交流は重要である。互いに学び合い、刺激を受け合い、認め合うなかで、それぞれの言語能力が鍛えられる。また、人と人との中でこそ「伝え合う力」は育っていく。同時に、互いに認め合うなかで自己肯定感が育ち、互いに学び合うなかでこそ、自分の学びを調整したり修正したりする自己コントロール力が高まるようにする。

### 自己指導能力をはぐくむ視点

#### 子どもに自己存在感を与えること - 役割達成感をもたせる -

- ・学習過程の1時間に1回はダイナミックな言語活動（バズセッション、パネルディスカッション等）を設定し、学習に対する充実感をもたせる。
- ・パネルディスカッションに取り組むグループ内で役割を分担し役割達成感を味わわせる。
- ・グループ学習で協力しあい、特定の生徒だけでなく全員の力が発揮できるようにする。
- ・自分の目標に対する達成感、学習に対する充実感をもたせる。

#### 共感的人間関係をはぐくむこと - 仲間や教師の肯定的態度・共感的理解 -

- ・自分の思いや考えを安心して表現できる、互いに心が開かれた教室をつくる。
- ・生徒の意見や考えを教師が認め、励ます。
- ・生徒同士が互いの思いや考えを認め合える交流の時間を設定する。

#### 自己決定の場をできるだけ多く与えること - 自己への振り返りを促す -

- ・実の場（実生活に生きる場）を設定し、自分の考えをもとに課題を選択したり、課題を設定したりして主体的な言語活動の展開を図り、充実感や肯定感をもたせる。
- ・主体的に取り組んだ学習を振り返り、静かに考える時間を設定する。

### 自己コントロールや自己肯定感をはぐくむための様々な手法を取り入れた学習の視点

セルフコントロールの学習等の手法を取り入れた学習を視点学習として(p.41参照)学習目標とのかかわりを明確にして学習過程に意図的に位置付け、具体的な授業の手だてを考える。

#### セルフコントロールの学習の手法から

##### 【自己肯定感】

- ・パネルディスカッションにおける各グループの相互評価、自己評価の場を適切に設定し、自分や自分のグループの学習のよさを確認させる。（チェック機能）

##### 【自己コントロール力】

- ・読解からパネルディスカッションにつながる学習に取り組む目標を明確にし、学び方を提示し、モチベーションを高め、見通しをもたせる。
- ・自己学習スキルとしてパネルディスカッションに取り組むスキルを身に付けさせる。
- ・振り返りの時間を設定し、自らの学びを<sup>2</sup>メタ認知的にとらえ、評価意識を育成する。  
（\*2 メタ認知:自分の認知的な言動を客観化し、意識化してチェックしながら調整や制御を図ること）

#### ソーシャルスキル教育の手法から

##### 【自己コントロール力】

- ・人間関係の良好な話し合いを進めるためにソーシャルスキルの基本的な考え方（教示 手本 リハーサル フィードバック）を活用し、パネルディスカッションの進め方を示した学習の手引きやビデオを事前に提示しておく。
- ・パネルディスカッションにおいてアサーティブな話し方（非攻撃的自己主張）を体験させ、スキルとして身に付けるようにする。

#### 開発的カウンセリングの手法から

##### 【自己肯定感】

- ・2回目のパネルディスカッションの課題グループが、円滑に言語活動に取り組めるよう

に、エンカウターの手法を用いて協力的で和やかな雰囲気をつくる。

- ・各グループのテーマの主張を構成するに当たっては、互いの調べ学習の成果や自分の考えを自由に述べ合い、互いの意見をまず認め合うようにする。(ブレンストーミング)

以上、教科独自の視点、自己指導能力育成の視点、様々な手法を生かした学習の視点からのアプローチについて述べたが、それらは個々に独立したものではなく、互いに強いかわりをもち、自己コントロール力や自己肯定感をはぐくんでいくものと考えられる。

## (2) 単元名と単元設定の理由

### ア 単元名 「情報と私」

#### イ 単元設定の理由

高度情報通信社会の到来は、世界中の情報を瞬時に受信したり、情報交換を行ったり、多くの人に自らの情報を発信したりすることを可能にした。

こうした社会において、生徒たちは日常的にテレビやインターネットなどで豊富な情報に接しており、溢れる情報の中で、自己を見失わず、情報を適切に判断、選択、加工、伝達できる情報活用能力や情報を扱う上での倫理観、責任感を身に付けることが必要になっている。

本単元の「マスメディアを通じた現実社会」「テレビとの付き合い方」という二つの教材は、情報化社会の中で情報をどのように活用するべきか、情報社会の中でどう生きるかについて論じた説明文である。これらの説明文は、マスメディアの影響力や功罪について直視し、どう受け止めるかは、ものの見方・考え方を育成していく上で重要であるという今日的課題を提起している。情報に振り回されず、取捨選択し、多くの人々と語り合うことを通し、自分なりの考えを確立する過程で、相手や場面に応じたコミュニケーション能力や情報活用能力の育成、その在り方について広い視野から筋道立てて考察させたい。

また、説明文は、多様な視点からものを見たり、ものごとを順序立てて考えたりする論理的思考力を培う上で有効な教材であり、二つの教材の比較を通して、筋道立った自分の考えをもたせたい。さらに、論理的な文章の展開と構成を読み取る言語能力を育成するとともに、読みとったことをもとにパネルディスカッション「メディアプラン会議」を設定し、マスメディアとのかかわり方を考える対論的対話能力を身に付けさせたいと考える。

そのため、説明文を「読む」活動から、メディアプラン会議をしようという「話す・聞く」活動へと発展させる連続的な学習の単元とする。

公的な場での話し合いを苦手とする生徒たちではあるが、これまでのバズセッションやディベート学習の中で、目的や手だてを明確化して充実感を味わわせることで、対話能力を高め社会的視野も広めている。こうした生徒たちの言語能力を踏まえ、これからの社会を生きるために必要な自分の考えを明確にした伝え合う力を高めたいと考える。

同時に、論理的な文章を読む過程やパネルディスカッションに取り組む学習過程に、自己コントロール力や自己肯定感を育成する視点を位置付け、自他を認め合い、自分の学習目標や振り返りを適切に取り入れた主体的な学習を通し、自己コントロール力を発揮し、自己肯定感が高められる学習を展開したい。

## (3) 単元目標

ア これからの情報活用の在り方について積極的に考え、自分の考えを論理的に表現したり、相手の考えを尊重しながら話し合おうとする。(国語への関心・意欲・態度)

イ パネルディスカッションで伝えたい意見の根拠を明確にし、論理的な構成や展開を考えて、話したり、聞き取ったりする。

互いの考えを尊重しながら、目的に沿って効果的に展開するように、説得力のある話し方をしたり、異なる意見を正確に聞き取り、自分の意見と比較しながら「情報化」について自分の考えを広めたり深めたりする。 (話す・聞く能力)

ウ 情報化に共通する説明文を読み、叙述に即して書き手のものの見方や考え方をとらえたり、その文章の内容や構成、表現の仕方の違いを比較したりして、情報についての自分の考え方と対比し、考えを深める。 (読む能力)

エ 説得力のある話し合いにふさわしい言葉づかいや文の組み立て、段落の構成を考えて話し、他の意見を的確に聞き取るため、助詞や助動詞の使い方に気を付けて聞く。 (言語についての知識・理解・技能)

#### (4) 単元指導計画 (p.79,80参照)

#### (5) 本時の目標

ア パネルディスカッションに積極的に参加し、これからの情報活用の在り方について考え、話し合おうとする。 (国語への関心・意欲・態度)

イ 話し合いが目的に沿って効果的に展開するように、根拠を明確にし、論理的で説得力のある意見を話したり、異なる意見も尊重しながら聞き取り、自分の考えを深める。

聞き手を意識して伝えたいことを明確に話すとともに、様々な事実や意見を受け止めるため聞き取りメモを取りながら、正確に聞き取る。 (話す・聞く能力)

ウ パネルディスカッションにふさわしい説得力ある言葉づかいや文の組み立て、段落の構成を考えて話し、助詞や助動詞に気を付けて他の意見を的確に聞く。 (言語についての知識・理解・技能)

#### (6) 本時の展開 (p.81参照)

#### (7) 指導上の工夫

各指導過程において研究の視点 ~ 点を踏まえた指導の工夫を次のように位置付けた。

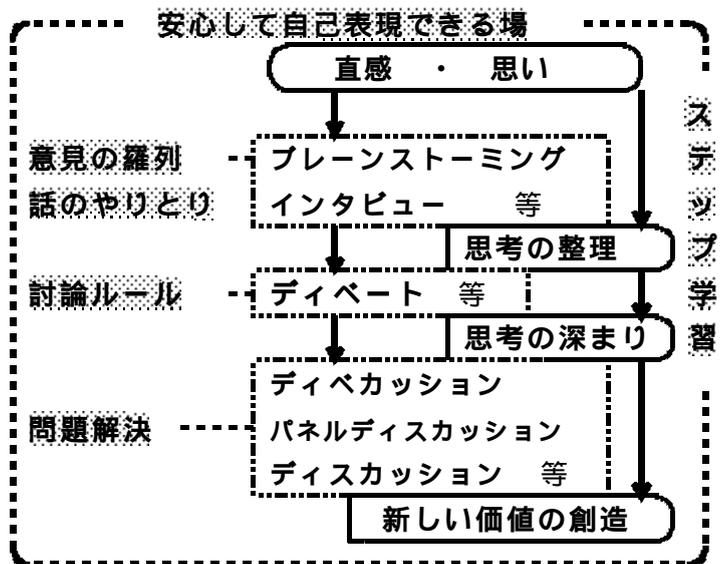
#### 単元の学習の前に大切にすること(事前学習の流れ)

#### 対話・討論のステップ学習

話す・聞く言語能力は、急速に伸びることもあるが、一般的に徐々に力を高めていくと考えられる。なかでも、対話や討論では、いきなり目的に添った話し合いは難しく、意見の羅列に終始し、新しい価値を生み出せない傾向がある。特に、中学生は思春期の課題と相俟って、自分の考えの不明確さや自信のなさ、表現方法の未獲得など自己表現に対する抵抗が大きい。こうした思春期の揺れを克服するため、ステップを踏んだ「話す・聞く」の学習が必要であると考え、「ステップ学習」の基盤過程では、自分の直感や思いを大切にしながらブレインストーミングやインタビューの学習を設定し、心の抵抗を少なくしたり、楽しく話のやりとりを経験できるようにすることが必要である。

基本過程では、討論ゲームといわれるディベートゲームや「なりきり討論」

を設定し、討論せずにはいられない状況の中で討論のルールをゲーム感覚で獲得し、抵抗感



## 「伝え合う力を育てる授業改善」

単元名「情報社会と私」

- メディアプラン会議をしよう -

自己肯定感をはぐくむ視点を、自己コントロール力をはぐくむ視点を で表記

| 時 | 指導過程と指導内容   | 学習活動   | 指導上の留意点  | 評価   | 自己肯定感をはぐくむ視点<br>自己コントロール力をはぐくむ視点   |
|---|---|--|--|--|--|
| 3 | <b>基本学習（課題把握）</b><br>・単元の学習目標の把握と学習計画の作成<br><br>・「マスメディアを通じた現実世界」の文章構成の把握と主題の理解 | ・「情報社会と私」の単元目標を確認し、学習計画表を作成する。   | ・ <b>なぜ読むのかという視点</b> を明確にするために、学習の手引きを用意し、学習の見通しと目標がもてるようにする。                      | ・自分の学習目標をつくらうとしている。<br>（関）                                   | 学習の目標や計画を立てることで自己コントロールの基盤をつくる。  |
|   |   | ・「マスメディアを通じた現実世界」<br>キーワード・キーセンテンス要約・文章構成の把握をもとに主題を理解する。   | ・ <b>どう読むのかという視点</b> を明確にし、説明文の学び方の基本を踏まえたワークシートを用意し、確実な習得を援助する。                   | ・論理的な展開や構成をとらえ、内容を理解している。<br>（読む）                            | 目的意識や方法意識を明確にして、じっくり読みとる姿勢をもつ。<br><br>二つの説明文を比較し、文章構成や展開を構成図や比較表にまとめる。                     |
| 2 | ・「テレビとの付き合い方」の文章構成の把握と主題の理解   | ・「テレビとの付き合い方」<br>キーワード・キーセンテンス要約・文章構成の把握をもとに、主題を理解する。  | ・前教材で学んだことを基に、説明文の学び方の基本に沿って、理解できるように援助する。   | ・目的に応じて文章の形態や展開に違いがあることに気付き、段落相互の関係や文の組立に注意して考え読んでいる。<br>（言） | 基本学習の内容を習得し、学んだ実感や充実感を味わう。   |
| 1 | ・「マスメディアを通じた現実世界」「テレビとの付き合い方」の比較読みと意見の形成  | ・二つの文章を比較し、論の進め方や工夫、論旨などの相違点、共通点、特徴を整理する。  | ・文章構成や論旨を比較しやすいようにワークシートを用意して、後で取り組む課題学習に生かすようにする。                                 | ・二つの文章の特徴や筆者の考えの相違点を把握し、筆者の考えに対して自分の考えを明確にしている。<br>（読む）      | 比較読みの目的を明確にし、共通部分と異なる部分を明らかにし、発見することのおもしろさに気付く。<br><br>二つの文章の相違点と同一点を明確にするため、筋道立て粘り強く比較する。 |
| 1 | <b>課題設定</b><br>・比較読みを基にしたパネルディスカッションのテーマ設定                                      | ・二つの文章の筆者の主張から疑問・意見を交流し、各グループでパネルディスカッションで取り組みたいテーマを選択する。<br>例「テレビがなければ生活できない」<br>「ラジオのよさを見直そう」<br>「インターネットは不安がいっぱい」 | ・ <b>読んだことをどう生かすかという視点</b> をもたせ、「メディアプラン会議」で各グループが取り組むテーマを生徒の生活に沿って選択できるように六つ設定する。 | ・筆者の考えを踏まえテーマに沿って自分の考えをもとうとしている。<br>（話す・聞く）                  | 様々な疑問や意見をもつことを肯定的にとらえる。<br><br>より値打ちのある課題を考えようとする。<br><br>パネルディスカッションのテーマを自己決定する。          |

| 時 | 指導過程と指導内容   | 学習活動  | 指導上の留意点  | 評価  | 自己肯定感をはぐくむ視点<br>自己コントロール力をはぐくむ視点  |
|---|---|---|--|---|---|
| 2 | <p><b>応用学習</b><br/><b>課題追究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルディスカッションの計画作成</li> <li>・広い範囲からの話題収集と意見形成</li> <li>・意図に応じた論理的構成と説得力ある表現構成</li> </ul> <p>・相手の立場を尊重し、目的に沿ったパネルディスカッションの展開と意見形成</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「メディアプラン会議」PART1<br/>パネルディスカッションの計画を立て準備をする。<br/>パネルディスカッションの進め方を確認する。<br/>同じテーマをもつグループごとに、様々な資料を基に調べたり、話し合ったりして発表メモを構成し、作った主張を述べる練習をする。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルディスカッションを開き、それぞれの立場から目的に沿って展開するよう話したり聞き取ったりする。<br/>パネリスト...グループを代表し発言し、他の主張を聞きながら討議する。<br/>フロア...各主張を聞き、積極的に討議に参加する。<br/>コーディネーター...各代表の主張を整理し、進行し討議をまとめる。<br/>・パネルディスカッションを振り返る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルディスカッションの流れを全体で確認する。<br/>・パネリスト、フロア、コーディネーターの役割を理解できるようにそれぞれの役割ごとの事前指導を行う。(ビデオ)<br/>・調べ学習がしやすいように参考資料の目録の作成や、インターネット検索の援助などを複数の教師による支援体制を組む。<br/>・ブレンストーミングやKJ法で整理しやすいように構成したワークシートを用意する。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの立場に立って、討議の留意点を確認する。特に互いの主張を聞き取ることにポイントを示すとともに聞き取りメモを用意する。</li> <li>・フロアも積極的に討議に参加できるように促す。</li> <li>・パネルディスカッションのビデオを用意し、振り返りの材料にする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力して課題学習を進めようとしている。(関)</li> <li>・事実に基づき根拠を効果的に組み合わせ、論理的な構成を工夫して自分たちの考えを説得力あるものしている。(話すこと・聞くこと)</li> <li>・話を論理的に構成するため文の組立を考えて、適切な助詞や助動詞を使っている。(言)</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の考えや立場を尊重して、話したり聞き取ろうとしている。(関)</li> <li>・事実に基づき自分の意見を持ち、説得力ある話し合いにしている。(話す・聞く)</li> <li>・異なる意見を聞き、自分の考えを振り返り、よりよい考えをもとうとしている。(話す・聞く)</li> </ul> | <p>自分たちの追究内容に価値付けし、自尊感情を高める。<br/>パネルディスカッションのテーマを粘り強く追究しようとする姿勢をもつ。<br/>調べ学習のルールを守って調べ学習に取りむ。<br/>グループで話し合う際、お互いの意見を尊重しようとする。</p> <p>テーマを自力解決する充実感を味わう。</p> <hr/> <p>異なる意見を聞き取り、自分の意見を修正し、よりよい意見にするため説得力ある意見をもつ。<br/>論理的な構成にするために、意見と根拠を効果的に組み合わせ、論理的な構成にする。</p> <p>互いの発表内容を認め、価値付けし自尊感情を高める。</p> <p>アサーションの姿勢をもって話し合いに取り組む。</p> <p>自分たち討議の仕方について目標に沿ってよさを見付ける。</p> |
| 3 | <p><b>発信学習</b><br/><b>発展・深化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場を尊重し、目的に添ったパネルディスカッションの展開と意見形成</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「メディアプラン会議」PART2を基に、自分の考えを再構築しよりよいメディアの生活を考えるためのフリーグループディスカッション「メディアプラン会議」PART2に取り組む。<br/>・様々な発表を基に、それぞれの発表に対する自分の考えをまとめる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・立場を変更したり、新たな立場を設定し、自由に討議することを促す。様々な立場のあるグループを形成する際、構成的グループエンカウンターの手法を用い円滑な話し合いができるようにする。</li> <li>・互いの発表のよさをワークシートにまとめ、自分の考えを深めるようにする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアとのよりよいかかわり方について自分の見方や考え方を話し合っている。(話す・聞く)</li> <li>・他の発表に対する意見や自分の意見を基に自分の考えを深めている。(話す・聞く)</li> </ul>  | <p>2回目のパネルディスカッションであり、自分の立場を明確にし、オリジナルな意見をもって、意欲的に取り組む。<br/>収集した情報の是非について自分の考えと対比させ、判断したり、評価したりして立論を練り上げる。<br/>互いの発表内容を尊重し、自分の意見を自信をもって発表する。</p>  |

(関)...国語への関心・意欲・態度

(話す・聞く)...話す・聞く能力

(読む)...読む能力

(言)...言語についての知識・理解・技能

本時の展開

| 過程  | 指導内容  | 指導形態 | 主な学習活動  | 指導上の留意点   | 教材・教具等  | 評価   |
|-----|---|------|---|---|---|--|
| 導入  | パネルディスカッションの運営方法について確認する。   | 一 斉  | <ul style="list-style-type: none"> <li>パネルディスカッションを行うに当たって、目標を確認し、話し合いの留意点を次のように確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     大きな声ではっきり発表する。<br/>                     発言をしっかり聞く。<br/>                     メモをとる。<br/>                     自分の意見をもつ。<br/>                     司会者の指示に沿って運営する。                 </div>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いが目的に沿って展開するために必要な視点を確認する。</li> <li>他のグループの意見を理解するために集中して聞くことを促す。</li> <li>自分の意見をもつためにメモをとりながら、意見をまとめるよう指示する。</li> <li>1回目のパネルディスカッションのよさを指摘し、意欲を高める。</li> </ul>  | フラッシュカード<br><br>ワークシート  |  |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場や考えを尊重して、目的に沿ってパネルディスカッションを効果的に展開できるようにし、自分の考えを深めるようにする。</li> </ul> | グループ | <ul style="list-style-type: none"> <li>(司会者) 今日のパネルディスカッションの趣旨を説明する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     メディアプラン会議PART (個人選択テーマグループ)<br/>                     私が考える「よりよいメディアとのかかわり方」について話し合おう                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループのパネリストが発表を行う。</li> <li>グループの発表が終了したら時間をとり各自が自分の意見をまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     (各グループの立場)<br/>                     1 テレビがなければ生活できない<br/>                     2 ラジオのよさを見直そう<br/>                     3 21世紀、インターネットは必要だ<br/>                     4 インターネットは不安がいっぱい<br/>                     5 いつの時代も新聞は便利<br/>                     6 未来のマスメディアは、これだ                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループまたは個人としての質問を交流する。</li> <li>(司会者) 質問を整理したり、意見の相違点を明確にまとめる。</li> <li>質問に対してパネリストまたはグループとして意見をまとめ、回答する。</li> <li>全体で討議を行う。</li> <li>話し合いを受けて、意見の修正や補足など各グループで話し合い、パネリストがまとめの発表をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>司会者には事前に進行の仕方を指導しておく。</li> <li>机間指導を行いながら、各自が自分の意見をまとめられるように助言する。</li> <li>全員が、積極的に討議に参加できるように、次の点について再確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>質問者</b><br/>                     ・自分の意見をまとめ、全体に分かるように質問する。<br/>                     ・発表内容を更に深められるような内容の質問ができるようにする。                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>回答者</b><br/>                     ・意見をまとめ、全体に分かるように回答する。<br/>                     ・様々な考えがあることを示し、内容を深められるようにする。                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>司会者</b><br/>                     ・目的に沿って進行できるように各発表者の意見をしっかり聞き、適切にまとめる。<br/>                     ・メモをとるなど発表の関係を明確にする工夫をする。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>パネルディスカッションの目的に沿って、できるだけ多くの生徒が討議に参加できるよう援助する。</li> </ul> | 司会の手引き<br><br>テープレコーダー<br><br>ワークシート<br>聞き取りメモ<br><br>各グループで作成したポスター、短冊 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習に積極的に参加しようとしている。<br/>(関) 【観察】</li> <li>話し合いが話題に沿って展開するように、伝えたい事柄や考えを明確にして発表したり、相手の意見と根拠を聞き分け内容を正確に聞いたりしている。<br/>(話す・聞く) 【観察】 【ワークシート】</li> <li>説得力のある言葉づかいや文の組み立てで話したり、文末表現等に気を付けて聞いたりしている。<br/>(言) 【観察】</li> </ul> |
| 展開  | パネルディスカッションのまとめをする。   | 一 斉  | <ul style="list-style-type: none"> <li>(司会者) 全体としてパネルディスカッションの意見をまとめる。</li> </ul>   |   |   |  |
| まとめ | 学習内容を振り返らせる。  | 個人   | <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の自己評価を行う。</li> <li>次時の予告を聞く。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を振り返らせ、自分の考えをまとめ、次時の学習につながるように促す。</li> </ul>   | ワークシート  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをまとめ、自己評価している。<br/>(関) 【ワークシート】</li> </ul>   |

(関)...国語への関心・意欲・態度、 (話す・聞く)...話す・聞く能力、 (言)...言語についての知識・理解・技能

をなくし、話し合いの妙味を体験させることが必要である。

こうした経験を踏まえ、新しい価値を生み出したり、問題解決を目指したりするための討論学習を設定していくことが大切である。ディベートから自由な意見交流へと発展させるディベカッション、パネルディスカッションなど様々な形態の話し合い学習を体験させることによって、伝え合う力を高めることができる。同時に、ステップ学習の中で話し合うことへの自信や自己肯定感を高めるとともに、相手とかかわっていくことによって自己を主張したり、抑制したり、修正したりするなどのコントロールする力も獲得していくと考えられる。

**(3年間を通した対話・討論学習の流れ)**

このことを踏まえ、

|     | 第1学年                           | 第2学年                            | 第3学年                      |
|-----|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------|
| 一学期 | ブレンストーミング<br>(「話し合いの仕方を改善しよう」) | ペア・カルテット対談<br>(「ニュースの時間」)       | ディベート<br>(「高瀬舟」安楽死について)   |
| 二学期 | インタビュー<br>(「夏休みの収穫」)           | バズセッション<br>(「私の一冊・感想交流会」)       | パネルディスカッション<br>(「情報社会と私」) |
| 三学期 | バズセッション<br>(「新聞講評会」)           | なりきり討論<br>(「立場になりきって討論ゲームをしよう」) | フリーディスカッション<br>(未来を創るために) |

次のようにステップ学習の計画を立てて実践した。こうした話し合いのステップ学習抜きには、充実したパネルディスカッションの学習を実現することは困難であると考えられる。生徒の実態に応じて、3

年間の「話すこと・聞くこと」の年間指導計画を立てることが重要である。

( \* 本研究でいう「ステップ学習」とは、対話・討論学習の段階的習得の流れを意味する )

以下においては、研究の視点、 から指導上の工夫を述べる。研究の視点は、学習活動の基盤として日常的に意識する取組としてとらえ、ここでは特記事項のみ記す。

**基本学習の過程「読むことの学習」で大切にすること**

**ア(研究の視点 )からの工夫**

読むことの学習過程で、研究の視点を取り入れた学習を次のよう考える。

| 自己肯定感   | 自己コントロール力   |
|---|---|
| <b>書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てる</b>         |   |
|   | 二つの説明文を比較し、キーワード、キセンテンス、文章構成や展開を構成図や比較表にまとめる。           |
| <b>文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと</b>            |   |
| 読みとったことをもとに、情報についての自分なりの意見をつくり、学習グループで交流し、評価しあう。    | 学習グループにおける交流を通して、他者の読み取りから学び、自分の考えを確かめたり、修正したりしてまとめる。   |
| <b>目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること</b>         |   |
| 学習計画表に比較読みの目的を記入し、読みとった内容を効果的に生かしたか自己評価して達成感を明確にする。 | 二つの文章の相違点と共通点を明確にするためにワークシートに記入し、比較して共通部分と異なる部分を明らかにする。 |

**(ア) 課題解決的な学習の読み(比較読み)**

なぜ、どうしてという疑問をもつ文章や、課題解決は予測されるがやや抵抗のある文章は学習への意欲化が図れ、課題解決的な読みを設定できるものである。本単元の「マスメディアを通した現実社会」と「テレビとの付き合い方」という2つの教材を比較して読む学習は、「?(疑問符)」をもつことができる課題解決的な学習として有効である。情報という同じ題材をテーマとして扱った2つの教材の共通する部分や異なる部分を比較しながら読むことによって、マスメディアの特色を理解し、問題の本質をとらえ、情報化社会の中で情報をどのように活用するべきか、情報社会の中でどう生きるかについて考える主体的な学習活動とした。

## (1) 読みの交流

生徒一人一人が自分の読みを深めるためには、学習集団の中で相互に啓発していく場面が大切である。比較読みで分かったことを交流することによって、友だちへの刺激になったり、認められたり追究学習の中で役立てられたりして自信を得ることができる。また、友だちの読みから自分とは違った考えを学び、自分の読みをさらに深めたり、広げたり、修正したりすることができる。その際の話し合い学習は、叙述に即した読みの力を身に付け、根拠となる叙述や論の展開をもとに行われるものであり、あくまで読みを深めることを目的としたものとしてとらえることが必要である。

## イ（研究の視点）からの工夫

学習過程における基本学習の中で身に付けるべき言語能力と自己コントロール力と自己肯定感を身に付けるための学習例は上記のとおりである。二つの説明文を比較読みし、論の進め方や論旨の共通点、相違点を読みとり特徴点を明確にし、自分の考えをもたせる学習を設定し、指導上の工夫のポイントとして次の3点を考えた。

### (7) 学習者自身による学習計画の作成

行動目標を明確にし、チェック機能を働かせ、評価するというセルフコントロールの考え方を踏まえ、「なぜ読むのか、どう読むのか」という視点を明確にした学習計画を立てることが大切である。ここでは、説明文の比較読みの目標を生徒自身が確認し、教師の提示する学習の手引きによって「どう学んでいくのか」という見通しをもって「情報社会と私」の学習計画を作成し、文章構成図ができたか、比較表ができたかなど学習のポイントで実現状況を生徒自身がチェックすることによって学習を調整したり修正したりできるようにした。

### (1) 自律のスキルを活用した学習（学び方を身に付ける学習）

セルフコントロールにおける自律のスキル(自分の行動の方向付けを指示するスキル)の手法を用いて説明文を読み深めるようにした。ここで自律のスキルとは、

説明文の学び方という学習の手引きやワークシートを基に、一人学びや交流的な学びの学び方を身に付けることである。具体的には、比較読みの基本的な学習方法について説明した学習の手引きやワークシートによって、説明文に書かれている情報社会の問題の本質や文章構成の特徴を理解できるようにした。

さらに学習速度が速い生徒や興味・関心の高い生徒に対しては別の資料を用意し、自分なりの考えを一層深めるようにした。

|     |  |  |    |       |                    |            |                |               |        |              |        |     |
|-----|--|--|----|-------|--------------------|------------|----------------|---------------|--------|--------------|--------|-----|
| 前半部 |  |  |    | キーワード | 二つの要文章をのま展と開めに即うして | テレビとの付き合い方 | マスメディアを通じた現実世界 | 二つの説明文を読み比べよう | 学習デザイン | 情報メディア会議をしよう | 学習の手引き | 三年組 |
|     |  |  | 要約 |       |                    |            |                |               |        |              |        |     |

### (ウ) 順序立てた思考の学習

論理的な文章の構成や論旨を順序立ててとらえようとする学習を通して、自己コントロール力としての粘り強さや目的に沿って調整する力を鍛えるようにした。

そのため、説明文の構成や展開を図式化したり、二つの説明文の相違点を表にしたり、生徒自身が文章の展開を分かりやすく整理して、順序立てた思考を促していく。また、グルー

ブで自分の工夫を付箋付きカードに書き、グループごとのボードに貼って視覚的にも分かりやすく整理することで、互いの意見を調整し合い、意見を補い合って順序立てた思考を組み立てるようにすることが大切である。

### 応用学習の課題追究の過程で大切にすること

#### ア（研究の視点）からの工夫

応用学習の課題追究過程における「話すこと・聞くこと」の内容の学習において、自己肯定感と自己コントロール力を育成する視点を取り入れた学習を次のよう考える。

| 自己肯定感   | 自己コントロール力  |
|---|--|
| <b>互いの立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深める能力の育成</b>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を練り上げる発表メモの作成を通して、発表内容への自信を高める。</li> <li>・自分たちの意見を確かにするための話し合いにおける認め合いの発言を促す。</li> <li>・相互評価や教師の励まし、賞賛を大切にする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる意見を聞き取り、自分の意見を修正し、よりよい意見にするやりとりで、説得力のある意見を根拠をもって示し、立論カードに記入する。</li> <li>・論理的な構成にするために、意見と根拠を効果的に組み合わせ、ワークシートで整理する。</li> </ul> |
| <b>広い範囲から話題を求め、話したり、聞いたりして、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりすること</b>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の資料やインターネットを活用して収集した情報を基に話し合い、確かな根拠へと広げること立論の自信を付ける。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した情報の是非について、グループで話し合い、自分の考えと対比させ、判断したり、評価したりして立論を充実させる。</li> </ul>   |

#### (ア) 話し合いの仕方を教える

話し合いが形式的なものになったり、一人一人が話し合いに抵抗感を感じたり、どう話したらいいのか分からなかったりすることを克服するために、話し合いの目的を明確にするとともに、話し合いの仕方を理解させることは不可欠である。そのため、パネルディスカッションのねらいや手順について、「パネルディスカッションの手引き」によって理解させるとともに、パネルディスカッションの実際を撮影したビデオテープを視聴させ、あらましを理解させる。このように話し合いの見通しをもつことによって、意欲化を図ることが大切である。

#### (イ) 課題への追究

グループで選択したテーマの発表内容や発表の形式を自分たちで十分練り上げ、準備段階から発表への自信をもたせ、肯定感を実感させたいと考えた。参考資料目録を準備し、根拠となる事実や資料を学校図書館で調べたり、インターネットやインタビューで得たりして発表内容をより確かなものにするため複数の指導体制を配慮した。その際、得た情報をそのまま取り上げるのではなく、十分吟味し、根拠として足りうるものになるか助言していくことが大切である。また、「未来のマスメディア」をポスターを使って分かりやすくプレゼンテーションしたり、「インターネットの不安」についてロールプレイング形式で補助説明したり発表形態を工夫し、自分たちの意見を説得力のあるものにすることも大切な視点とした。

#### イ（研究の視点）からの工夫

##### (イ) 討論課題を選択する

基本学習の比較読みの中で自分の考えをもったとはいえ、全体としてまだ十分深まったものではなく、テーマに迫る話し合いの立場を生徒自身が設定することは困難であった。そこで、初めてのパネルディスカッションへの効力感をもたせるため、あらかじめテーマに迫るいくつかの立場を設定し、生徒に選択させることでスムーズに進むようにした。

| パネルディスカッションの各立場 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1               | テレビがなければ生活できない   |
| 2               | ラジオのよさを見直そう      |
| 3               | 21世紀、インターネットは必要だ |
| 4               | インターネットは不安がいっぱい  |
| 5               | いつの時代も新聞は便利      |
| 6               | 未来のマスメディアは、これだ   |

その際、学習グループごとに比較読みから得た自分の思いや考えを話し合わせ、それぞれの立場を選択することによって、自己決定としての責任と肯定感をもちさせるようにした。

#### (イ) 役割達成感を実感できる役割分担をする

課題追究を進めていく上で、一人一人の学習がかみ合わず困難に直面する場合もある。教師の助言で目的へのモチベーションを高めたり、一人一人が役割を分担しながらも、協力し合う手順を示したりして役割達成感を味わわせることが大切である。

グループで課題を追究していく見通しを話し合い、調べ学習の方法や分担を得意分野に応じて決めるとともに、パネルディスカッションでの役割を分担しておく。パネルディスカッションでは、グループの代表のパネラーだけが代表意見や反駁意見を言うのではなく、グループの一人一人が、役割を受けもち、グループとしての総意で立ち向かえるようにする。

|                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| パネリスト (1名)            | パネルの主張             |
| 質問者 (2名)              | 他グループへの質問          |
| 回答者 (2名)              | 他グループからの回答者        |
| プレゼンター(ロールプレイング担当 1名) | パネル内容を分かりやすく表示する役割 |

そのため役割としては、パネラーの他に、プレゼンテーション担当(ロールプレイング担当者)、反駁担当者、他グループへの質問担当者などをあらかじめ示しておき、各グループで独自にオリジナル分担表をつくるようにし、一人一人の存在感、自己肯定感を高めようとした。留意したことは、役割分担を踏まえながらも、グループ全体のよりよい意見

を作り上げるようにしたことである。

#### ウ(研究の視点)からの工夫

##### (ア) ブレーンストーミングによる確かな意見づくり

グループで選択したテーマの意見づくりでは、互いの意見を否定せず、思いつく意見をなんでも出し合うブレーンストーミングの手法を用いた。さらに一人一人が調べたことを基に付箋カードに要点を書いて多くの情報や意見から課題の中心に迫るための糸口を見つけ出させるようにした。自信のない生徒も、遠慮せず意見を出し合えることで自己肯定感を高めることにつながった。また、これら多くの意見を整理することで、反対の意見や事実を想定して、反駁の意見をつくっておくこともできる。論理的な意見を組み立てる前の重要な場であると同時に、生徒が間違っているのではないかなどと不安感をもつことなく参加でき、意欲化を図ることができる。と考える。

##### (イ) アサーション・トレーニング

学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の内容には「互いの立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めること」とあり、自他の意見を尊重することが重要な能力として位置付けされている。

そこで、アサーション(非攻撃的自己主張)・トレーニングの手法を立論構成のバズセッションの視点として取り入れる。国語科だけでなく様々な学習活動に取り入れられるものであるが、ここでは、資料を取捨選択し加工し練り合い、より説得力のある立論にするため建設的な意見構築が必要であると考え、自他の意見を尊重するアサーションの視点を取り入れた。

攻撃と批判は性質の違う言語活動である。攻撃的討論はテレビなどでもよく見られるが、伝え合うという双方向の活動や人間関係の結び合いにはつながらない。パネルディスカッションにも、批判的言語活動は含まれているが、それは創造的言語活動につながるものでなければならない。これから必要とされる討論能力は、伝え合い、批判し合い、理解し合い、新しい価値を創造する力である。こうしたことから、アサーションの視点をもつ話し合いは有効であり、自己コントロール力と自己肯定感を高めることにつながるのではないかと考える。

**応用学習・発信学習の「パネルディスカッション」で大切にすること**

**ア（研究の視点）からの工夫**

追究過程における「話すこと・聞くこと」の内容の学習において、自己コントロール力と自己肯定感を育成する視点を取り入れた学習を次のよう考える。

| 自己肯定感  | 自己コントロール力  |
|--|--|
| <b>広い範囲から話題を求め、話したり、聞いたりして、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりすること</b>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>各テーマの発表を話したり、聞いたりして、自分たちの主体的な判断を確かめ、有用感を実感させるとともに、さらに自分の考えを広げられるよう、フリーパネルディスカッションをする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>パネルディスカッションで自分の意見を発表したり、他の意見を聞いたりして自分の考えと対比し、根拠を明確にして判断したり、評価したりしたことをワークシートに記入する。</li> </ul>            |
| <b>互いの立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深める能力の育成</b>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>パネルディスカッションの手順を理解し、話し合う過程で互いに認め合いながら発言する。</li> <li>相互評価カードで互いに励ましたり、賞賛したりする。</li> <li>パネリストだけでなく全員による発言を仕組み一人一人が役割達成感をもつようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>異なる意見を聞き取り、聞き取りカードに記入する。</li> <li>評価の視点を持ち、他者の話を注意深く聞き分け自分の考えを形成する。</li> <li>聞き手を意識した話し方をする。</li> </ul> |
| <b>話の中心部分と付加的な部分、事実と意見との関係に注意し、話の論理的な構成や展開を考えて話したり聞き取ったりする能力の育成</b>  |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>他者の意見を正確に聞き取るため中心となる事柄などをメモカードに記入し、自分の考えと比較して必ず質問する事柄を考えるようにする。</li> </ul>                              |

**(ア) 聞く力を鍛え、説得力ある話す力を高める**

パネルディスカッションの展開に当たっては、パネリスト、フロアともに、話し合いの方向や流れを確認し、他のグループの発表を聞き、他の代表の意見との違いを明確にしてメモする活動を設定する。じっくり聞き取り、聞き取ったことをもとに自分の考えを再確認したり、修正したりして話し合いを展開する活動は、自己コントロールする力を鍛えることにつながる。そのため、メモをとる時間を必ず設定するとともに、聞き取りワークシートには、他者の意見と根拠を聞き分けメモをとるようにし、聞く力を鍛える。

さらに、その場での質疑応答を円滑に行うために、事前に調べた資料や多様な意見をもとに、要点をメモさせ、説得力のある発言にするよう指導する。また、予想しなかった疑問や反論には、役割分担者だけが対応するのではなく、グループ全体で協力して考えるよう助言する。話し合いの方向が目的に沿って行われるように、司会者のチェック機能を発揮させ適切な場面で何のために話し合うのかを明確にさせるようにする。

**(イ) 個人選択・パネルディスカッションの設定**

各グループで課題追究した論題のパネルディスカッション（1回目）によって、一人一人の考えが深まり、学習への意欲が高まった。

自分自身の意見を表出することに抵抗感のある生徒にとってはグループでの課題追究は有効であった。しかし、更に学習過程の中で深まった一人一人の考えや表現したいという思いを反映することが必要である。そこで自分のグループの立場を離れ、パネルディスカッションの中で自分自身が考えたり感じたりしたことを基に



六つのテーマを個人で選択し、再度パネルディスカッションに取り組むことにした。今回は個人の意志を反映したグループ構成であり、学習への意欲を更に高められるようになった。

### イ（研究の視点）からの工夫

#### 振り返りの評価活動の充実

学習計画の段階から見通しをもたせ、適切なタイミングで自分の学習を振り返らせることで、自分を吟味する力としての自己コントロール力が育つのではないかと考え、調べ学習や意見づくり、パネルディスカッションを通じて、自己評価や相互評価をする場を設定した。

その評価を基に自分たちの学びを互いに価値付けしたり、発表意見の修正や批評をしたりして、学習計画の練り直しや、学習方法の見直しを取り組ませた。こうした学習活動の見直しは、2回目のパネルディスカッションに生かすことができ、短時間の取組ではあったが、自分たちの思いや考えを一層反映させた話し合いにつながった。

今後はパネルディスカッションをビデオに撮り、その展開ややりとりを生徒自身が客観的に振り返ることで、実の場で生きて働く言語能力の獲得を図ることができると考える。

## (8) 生徒の変容

### ア 単元の授業に入る前

「情報化と私」の学習に入る直前、ニューヨークのテロ事件、アフガニスタンへの報復攻撃が起こった。生徒たちは衝撃的な映像を何度となく目にし、テレビニュースや新聞報道に対して高い関心を示していた。予想以上の展開となったが、情報社会に対する学習への意欲やパネルディスカッションへの興味を示した。

しかし、依然として自分の思いや考えを表す話し合いへの抵抗感は少なからずあった。そこで、パネルディスカッションのグループ構成は、個人の課題ごとに編成するのではなく、半ば客観的立場のとれるグループごとの課題選択で取り組むようにした。2年生の時や1学期に取り組んだディベート学習の成果を評価し、話し合いへの意欲を高めるようにした。

事前アンケートからも分かるように、「話す」ことについて8割の生徒が「好きではない」と答えている。ところが「話し合い」については6割強の生徒が「好き」という回答であった。一人では話すことに抵抗があっても、集団の中で話すことについては比較的抵抗が少ないことが分かった。また、1学期に取り組んだディベート学習で充実感や達成感を味わっていたとも考えられる。同時に自己肯定感にかかわっては、授業中の自己発揮や受容感にかかわる数値が低く、話すことに対して自信がもてず意欲化ができない面も見られた。

### イ 授業の後

#### (1回目のパネルディスカッション後)

パネルディスカッションの取組は初めてであったので、不安もあったが、生徒たちは二つの教材の比較読みの過程でテーマへの関心をもち、1学期のディベート学習の充実感から話し合いへの興味をもち始めた。自分たちの意見の根拠を作り上げる過程では、テーマによっては、資料収集に試行錯誤したところもあったが、全体として論拠の立て方の学びの後であったため、推論を立て少ない資料の中からもよい立論ができ徐々に自信をもち始めた。パネルディスカッションにおいては、学習の手引きからルールや話し方を学んでいたためスムーズに取り組み、フロアとの論議に熱が入り、ほとんどの生徒が集中して取り組んでいた。しかし、数人はまだ主体的になれず集中力を欠くことがあったが予想以上に活発な活動が展開できた。

(聞き取りメモ)

・自分もインターネットをしているので、言いたいことがよく分かった。例がはっきりしていて、分かりやすく、何が言いたいのか伝わってきました。

アンケート結果に見られるように、わずかながら話し合い学習が好きになり、「いろいろな意見が聞ける」「よい意見が生まれる」など、その理由も上昇している。

(アンケートより抜粋)

(4学級 138名)

同時に、自己コントロール力と自己肯定感についても、事前・事後のアンケートを比べると若干ながらその数値に変化が見られる。他の学校生活の影響もあるため断定はできないが、自分のよさを発揮することについて10%増えていることは一つの成果と考えられる。また、自分の考えが受け入れられているという思いは4%増え、粘り強さについては6%増えている。パネルディスカッションの学習を通して、自己コントロール力や自己肯定感にかかわる高まりが見られた。

| アンケート項目            |                  | 事前アンケート | 事後アンケート |
|--------------------|------------------|---------|---------|
| 自己コントロールと自己肯定感の項目  |                  | YESの回答率 | YESの回答率 |
| 自分が好きか             |                  | 29.6%   | 33.0%   |
| 自分に自信があるか          |                  | 22.6%   | 22.6%   |
| 授業中、自分のよさを発揮できているか |                  | 16.4%   | 26.4%   |
| 自分の考えが受け入れられているか   |                  | 16.5%   | 20.3%   |
| 友だちのよさにふれると向上心をもつか |                  | 67.9%   | 68.4%   |
| 達成できそうにないとあきらめやすいか |                  | 43.7%   | 37.6%   |
| 国語に関する項目           |                  | YESの回答率 | YESの回答率 |
| みんなの前で話すのが好きですか    |                  | 21.0%   | 29.3%   |
| 理由                 | き 恥ずかしい          | 45.1%   | 32.3%   |
|                    | ら 何を話せばいいかわからない  | 20.0%   | 24.0%   |
|                    | い どう話したらいいかわからない | 21.8%   | 15.0%   |
| 話し合いが好きですか         |                  | 64.0%   | 67.6%   |
| 理由                 | き 恥ずかしい          | 11.8%   | 15.2%   |
|                    | ら 何を話せばいいかわからない  | 39.3%   | 32.2%   |
|                    | い わからなくなるから      | 19.6%   | 15.7%   |
| 理由                 | 好 自分の意見が言える      | 19.5%   | 20.3%   |
|                    | き いろいろな意見が聞ける    | 36.0%   | 44.3%   |
|                    | い よい意見が生まれる      | 20.3%   | 21.8%   |

生徒の感想(1回目)

- ・普通の意見発表とは違ってとても新鮮だった。調べた情報と自分たちの意見をまとめなくてはいけない点では、難しかった。少し自分の考えと違う意見も多くあったが、全体的にみんなしっかり言えてよかった。おもしろい授業だった。また、やりたい。
- ・班のみんながどのように考えているがよく分かった。一つのテーマについて班で意見をまとめて発表するのは、難しいと思った。質問されてとっさに答えられる人がいてすごいと思った。意見を応答させることは大事なことだと思った。

(2回目のパネルディスカッション後)

グループによる課題選択のパネルディスカッションにおいて、生徒たちはこの学習に積極的に取り組むとともに、根拠を追究するなかで、自分の考えに自信をもったり、考えを深めたりすることができた。そこで、自分自身の考えに基づくグループに再編したパネルディスカッションを提案したところ、意欲的に学習に取り組む姿勢を示した。1回目の調べ学習を踏まえたものであるため、時間的にも展開的にもスムーズであった。

生徒の感想(2回目)

- ・今回は自分のテーマで追究したので、自分の考えを深められた。ものを見方を広げることができた。みんなの意見がたくさん出て、積極的になれる場だと思った。
- ・根拠をつくったりするのは、めんどろだけども追究していくというんなことがよく分かった。意見がぶつかった時は心が揺れ動いた。またこのような学習はやってみたい。
- ・今回のパネルディスカッションは、前よりも内容が濃くなったと思うし、質問も難しくなった。前にもまして時間が足りなかったけど、みんなと協力することが出来たし、どの班もわかりやすくまとめていて前よりうまくいった。めちゃくちゃ楽しかった。
- ・2回目のパネルディスカッションだったので、前よりスムーズだったし、意見が深まった。今回は違うテーマに取り組んだので、前回のテーマの意見を客観的に聞くことができてよかった。自分の意見を相手にしっかり伝えるのは大変だと思った。
- ・いろいろな人の意見が聞いて面白かった。質問に対して的確な対応が出来た時と出来ない時があったが、充実して本当に楽しかった。パネルディスカッションらしかった。
- ・みんなから質問をいっぱいしてもらったり、相手を納得させたり「へえ、なるほど」と納得させられたり、自分の考えを深められて充実していた。

感想に見られるように、1回目より2回目の方が充実感や達成感を感じていることが分かる。また、話し合いの流れやグループ学習など学習全体を客観的にとらえようとするメタ認知的な感想も見られる。グループ編成を変え、同じテーマを2回取り組ませたが、途中であきらめることなく、一層熱を帯びたパネルディスカッションになった。

~~~~は自己コントロール力にかかわる記述であり——は自己肯定感にかかわる記述ととらえられるが、これらは一つ一つ切り離されたものではなく、連続性や相互関連をもっているものである。学習の深まりによってさらに記述内容にもそのかわりの深さが見られた。

## (9) まとめ(成果と課題)

### (成果)

#### 自己コントロール力について

- ・学習目標や計画を明確にしたことによって、目標を明確にもつことができ、学習計画を自ら立て見通しをもち、主体的に学習活動を展開したり、達成度のチェックをしたりして自己コントロールにかかわる基本的な構えをつくることができた。
- ・自己学習スキルとしての各種の学習の手引きや学びを導くワークシートを活用することによって学び方を身に付け、学習を方向付けようとする構えができた。
- ・パネルディスカッションを通して、互いの意見を述べ合う中で、互いの意見を認めたり、批評したり、修正したり、意見のぶつかり合いや心の揺れをコントロールしながらよりよい意見をつくることができた。

#### 自己肯定感について

- ・パネルディスカッションに取り組むためのグループでの調べ学習(図書資料、インターネット等による)やグループバズセッションを設定し、教師が援助することによって、自分たちなりの考えに自信をもちパネルディスカッションに臨めた。
- ・同じテーマをグループ選択テーマと個人選択テーマで連続してパネルディスカッションを設定したことにより、1回目の学びを2回目の学びにつなぐことができ、話し合うことの抵抗感を低くすることができた。同時に、自分の考えを基にしたテーマにしたことで「意欲的に取り組み、考えを深めることができた」と自己肯定感を実感させることができた。

### (課題)

#### 自己コントロール力について

- ・自己コントロール力を高める有力な手だてとしての評価方法の工夫が必要である。前述したように形式的な自己評価に終わらず、学び手を育てるための評価の工夫が必要である。音声言語のように瞬時性のものを評価するためにはビデオの活用等工夫が必要である。

#### 自己肯定感について

- ・自己肯定感は積極的な学習姿勢をもつものほど高くなる傾向が見られた。全員が自己肯定感を十分実感できるように、活動がバラバラになりがちなグループ学習では、積極的ににかかわるものとそうでないものとの差を埋める手だてを周到に考えておくことが必要である。

以上、中学校国語科における自己コントロール力を育成し、自己肯定感を実感する学習活動の視点とその実際を述べたが、これらは教科学習と切り離されてあるものでもなく、新しい学習活動でもない。生徒が主体的な学習を展開し、基礎的・基本的な言語能力を確実に身に付ける過程やそれを基盤とした発展的な言語活動の中に、これらの視点を意識的に位置付けることが大切なのである。そのことが、同時に授業改善として魅力ある授業づくりにつながり、生徒一人一人の豊かな国語力を高めることにつながっていくと考える。